

# 2013年度入試 直前動向分析

大学入試センター試験まで残り1ヶ月半となり、今年も本格的な入試シーズンを迎えた。

来春入試では国公立大の後期日程廃止・縮小や大阪大の入試変更、教育系・医療系を中心とした学部・学科の新増設、明治大、同志社大の学部新設などの動きがみられる。

ここでは、10月に実施した第3回全統マーク模試の志望データをもとに2013年度入試の動向を探ってみる。

## 国公立大学編

### ◆18歳人口4万人増で センター試験志願者数 現役生が増加

はじめに、大学入試センターより10月12日に公表された受付最終日時点の大学入試センター試験（以下「センター試験」）の出願状況を確認しておこう。出願総数は前年同日時点より15,345人増の536,334人となっている【表1】。内訳をみると、現役生の志願者数は昨年より16,457人（3.9%）の増加、既卒生等は1,112人（1.2%）の減少となった。これは今年度18歳人口が約4万人（3.4%）増加するのに伴い、来春の高卒者数の増加も見込まれるためだ。大学志願者数も約2万人増の68万人程度と予想される。

昨年度の最終志願者数は、この時点から消印有効分等が追加され、3万5千人近く増加した。昨年は受験教科・科目数の事前登録の際、別教科扱いの地歴・公民で出願書類の記入方法が複雑だった。そのため、受付最終日間際に出願した高校も多く、例年より1万人以上多い増加となった。今年は受験科目数のみ登録するなど記入方法の複雑さは若干改善されたが、曜日の関係上締切日が早まったことから昨年と同程度の増加が見込まれ、最終的な出願者数は57万人前後になるものと予想される。

### ◆やや落ち着いた国公立大志向 堅実志向の受験生

ここからは第3回全統マーク模試の志望データをもとに、国公立大の志望動向をみていこう。

【表1】高卒者数と大学入試センター試験志願者数推移

年度	高卒者数	受付最終日志願者数		
		全体	現役生（志願率）	既卒生等
2012年度	1,053,255	520,989	425,178 (40.4%)	95,811
2013年度	1,091,855	536,334	441,635 (40.4%)	94,699

※高卒者数は学校基本調査（速報版）より（2013年度は河合塾推計）  
※志願者数は受付最終日17時現在の数値

国公立大全体の志望者は、前年比101%と増えているが模試受験者数の増加率104%と比べると、受験生の国公立大志向はやや落ち着いた感がある【表2】。

日程別にみると、前期日程で前年比102%、中期日程で同104%、後期日程で同100%となっている。前期・中期日程に比べて後期日程の伸びが低いのは、後期日程の廃止・縮小の影響だ。来春入試では**大阪大**（理、基礎工）、**神戸大**（経済）や、**筑波大**、**群馬大**、**名古屋市立大**の医学科で後期日程を廃止し、**横浜国立大**（理工）では後期日程の募集人員が大幅に縮小される。

とくに、**大阪大**が昨年の工学部に続き、理学部と基礎工学部でも後期日程を廃止する影響は大きく、旧帝大クラスの理工系志望者は後期日程の出願先が一層限定されることになる。すでに模試では後期日程が残る他の旧帝大や周辺大に影響が出ている。**神戸大**（理、工）がそれぞれ前年比138%、123%、**大阪市立大**（理、工）が同107%、101%、**九州大**（理、工）が同114%、118%、**東北大**（理）が同109%と、同系統学部の後期日程で志望者数が増加しており、来春入試では一部で難化が予

【表2】国公立大志望動向：国立・公立別／日程別（第3回全統マーク模試より）

		昨年		今年		前年比
		人数	前年比	人数	前年比	
国立	前期	145,849	102%	148,688	102%	102%
	後期	68,718	99%	68,134	99%	99%
	全体	214,567	101%	216,822	101%	101%
公立	前期	37,725	102%	38,605	102%	102%
	中期	12,450	104%	12,970	104%	104%
	後期	17,644	101%	17,837	101%	101%
	全体	67,819	102%	69,412	102%	102%
国公立	前期	183,574	102%	187,293	102%	102%
	中期	12,450	104%	12,970	104%	104%
	後期	86,362	100%	85,971	100%	100%
	全体	282,386	101%	286,234	101%	101%

【表3】国公立大日程別志望動向：大学グループ別（第3回全統マーク模試より）

	前期日程			後期日程			中期日程		
	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比
難関10大学	50,179	49,518	99%	14,590	13,033	89%	—	—	—
準難関・地域拠点10大学	36,123	36,732	102%	15,821	15,238	96%	—	—	—
その他大学	97,272	101,043	104%	55,951	57,700	103%	12,450	12,970	104%

難関10大学は、【表4】参照  
準難関・地域拠点10大学は、筑波大、千葉大、横浜国立大、新潟大、金沢大、岡山大、広島大、熊本大、首都大学東京、大阪市立大

想される。

**【表3】**は国公立大の志望者数を、旧帝大を中心とした難関10大学、これに次ぐ準難関・地域拠点10大学、その他の大学の3つに分類し、それぞれの志望者数の前年比を日程別に比較したものである。前期日程では、難関10大学の前年比99%に対し、準難関・地域拠点10大学で同102%、その他の大学で同104%と、入試難易度が下がるにつれ志望者が増加している。後期日程でも、難関10大学の前年比89%、準難関・地域拠点大の同96%に対し、その他の大学で同103%となっており、難関大を避け確実に国公立大合格をねらう受験生の堅実志向が見受けられる。

### ◆東京大で志望者減、京都大が志望者増

**【表4】**は難関10大学の前期日程について志望者の前年比を表したものである。

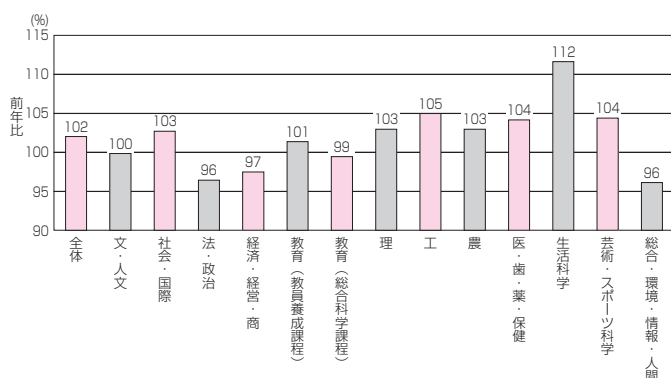
**北海道大**は、学部選択のミスマッチ解消をめざして導入した「総合入試」が3年目を迎えるが、文系で前年比118%、理系で同108%と好調だ。とくに総合入試理系は物理重点が同142%、生物重点が同150%と人気が高い。このほか、歯学部が同111%、医学部が同109%など獣医学部の同91%を除き理系学部で志望者を増やしている。大学全体の志望者数は同105%と、難関大の中では最も増加率が高い。

秋入学全面移行など教育改革論議を巻き起こした**東京大**は、文科類が前年比88～89%、理科類でも二類の同103%を除き、一類が同96%、三類が同87%と志望者が減少している。大学全体でも前年比93%と志望者を減らしている。同じ関東地区の一橋大は、後述の社会科学系不人気の影響により全学部で志望者

**【表4】 国立難関10大学（前期）の志望動向（第3回全統マーク模試より）**

	昨年	今年	前年比
北海道	4,645	4,875	105%
東北	4,175	4,106	98%
東京	6,997	6,537	93%
東京工業	2,137	1,881	88%
一橋	2,296	1,868	81%
名古屋	7,401	7,212	97%
京都	5,768	5,995	104%
大阪	6,460	6,620	102%
神戸	7,110	7,187	101%
九州	3,190	3,237	101%

**【グラフ5】 国公立大（前期） 学部系統別志望動向（第3回全統マーク模試より）**



を減らし、大学全体で前年比81%と大幅な減少となっている。

一方、山中伸弥教授がiPS細胞の研究でノーベル賞を受賞したことから注目が集まる**京都大**は、大学全体で前年比104%と人気が高い。理学部の前年比95%を除き、医学部が同115%、農学部が同110%、薬学部が同106%、工学部が同105%と理系学部の人気は堅調だ。また、文系学部でも法学部の同98%と文学部の同92%を除き、経済学部が同109%、総合人間学部が同120%と一定の人気を集めている。

**大阪大**は、後期日程を廃止する理学部と基礎工学部で前期日程の募集人員をそれぞれ48名増の239名、69名増の395名へと増員する。この人員増効果で成績上位層を中心に志望者を集め、それぞれ前年比110%、同106%と増加している。また、理学部では従来の一般枠とは別に、募集人員37名の「挑戦枠」を導入する。合否判定はまず「挑戦枠」で実施した後、不合格者は「一般枠」でも合否判定を行う。成績上位層にとってはWチャンスといえる。模試の志望動向をみると一般枠第一志望者数が529人であるのに対し、挑戦枠第一志望者数は20人となっている。

難関大以外の注目大として、**横浜市立大**が挙げられる。国際総合科学部では各学系ともA方式とB方式の2方式に複線化する。国際都市・国際教養・経営科学の文系3学系では、センター試験3教科を課すB方式に加え、5教科7科目を課すA方式でも募集する。A方式での受験者はB方式でも同時に合否判定が行われるが、科目負担増が敬遠されてか、志望者は集まっていない。新学系の国際都市学系も、文低理高の波を受け現在のところ低調な人気となっている。

### ◆文低理高・医療系の人気は変わらず 社会科学系の人気低迷が続く

続いて学部系統別の志望動向を見ていこう【**グラフ5・表6**】。全体的な傾向は今春入試と同様、「文低理高」と「資格系人気」の継続である。

文系では、「法・政治」（前年比96%）、「経済・経営・商」（同

**【表6】 詳細分野別志望動向の抜粋（第3回全統マーク模試より）**

学部系統	詳細分野	前期日程		
		昨年	今年	前年比
理	理学系一括	2,666	2,644	99%
	数学・数理情報	1,556	1,647	106%
	物理	1,514	1,646	109%
	化学	2,018	2,072	103%
	生物	1,357	1,450	107%
	地学・他	948	897	95%
農	農学系一括	1,695	1,752	103%
	生物生産・応用生命	6,390	6,719	105%
	環境科学・経済システム	1,656	1,573	95%
	獣医	1,427	1,474	103%
	酪農・畜産	405	353	87%
	水産	922	1,004	109%
医・歯・薬・保健	医	12,740	13,420	105%
	歯	729	765	105%
	薬	3,047	3,490	115%
	看護	9,932	10,072	101%
	医療技術	6,026	6,061	101%
	保健・福祉	238	265	111%

97%)など社会科学系の人気低迷が続く。公務員給与の削減や、法科大学院の実績不振など暗い話題の影響を受けて、法・政治学系の人気低迷が顕著となっている。「教育(教員養成課程)」は同101%と増加しているものの、全体の増加率102%を下回っており、また「教育(総合科学課程)」も同99%となっている。一方、「社会・国際」学系は同103%と依然人気を維持している。

理系では、「工」「医・歯・薬・保健」学系の志望者が4～5%増で、高い人気を保っている。「理」「農」学系の志望者も3%増となっており、理系人気は来春もまだまだ続きそうだ。

詳細分野をみると、「理」学系では「地学・他」を除いてすべての分野で志望者が増加。とくにヒッグス粒子の発見など話題の多かった「物理」は前年比109%と大幅な伸びを示す一方で、**東京工業大、名古屋大、京都大**などの難関大が含まれる「理学系一括」では同99%と減少している。

「農」学系では「生物生産・応用生命」が前年比105%と堅調に増加。「獣医」も同103%と人気を集めている。前述のiPS細胞研究のノーベル賞受賞で、生物に関連する分野に波及効果が出ていると思われる。

出ていると思われる。

「医・歯・薬・保健」学系では、すべての分野で前年の志望者数を超えた。とくに「薬」(前年比115%)や「保健・福祉」(前年比111%)、「医」(同105%)、「歯」(同105%)で志望者数増加が目立つ。医学科については、文部科学省・厚生労働省が9月に「地域の医師確保対策2012」で2013年度は十分な教育環境が整った大学で現行基準の上限125名を超える定員増を可能にすると発表した。現時点でどの大学で何名増員されるかなど詳細は不明だが、ここ4年間ですでに国公立大、私立大あわせて入学定員を1,300名以上増やしており、今後新たにどれほど増えるかは未知数だ。詳細は募集要項等にて発表されるので、医学科志望者は、今後の各大学の情報に注意したい。

以上、国公立大入試の動向について、ポイントとなる点を中心にみてきた。国公立大の志望動向はセンター試験の平均点次第で例年大きく変わる傾向にあるため、センター試験後の動きについても十分注意したい。

# 私立大学編

## ◆私立大志望者前年並み

第3回全統マーク模試での私立大全体の志望者数は前年比104%で、模試受験者数の増加率104%と同数になっている。方式別にみても、一般方式が前年比104%、センター利用方式が同104%でまったく同じ値になった【表7】。

一方、大学所在地区別の志望動向では地区によって差が出ており、東北地区が前年比116%、関東(東京除く)・甲信越地区が同110%と伸び率が高く、両地区とも志望者を1割以上増やしている。ほぼ前年並みの九州地区を除いて、他の地区では2～8%志望者増となった。

## ◆私立大も理系、資格系人気続く

次に、学部系統別の志望動向【グラフ8】をみてみると、全体的な傾向は今春入試から大きく変わっていない。私立大においても、国公立大同様、「文低理高」と「資格系人気」の傾向

が続いている。

文系では、私立大全体の前年比104%を超える系統はなく、各系統とも前年並みの志望者数となった。特に「法・政治」学系(前年比100%)は、今春入試で志望者を減らしていたが、今回の模試においても人気は回復していない。

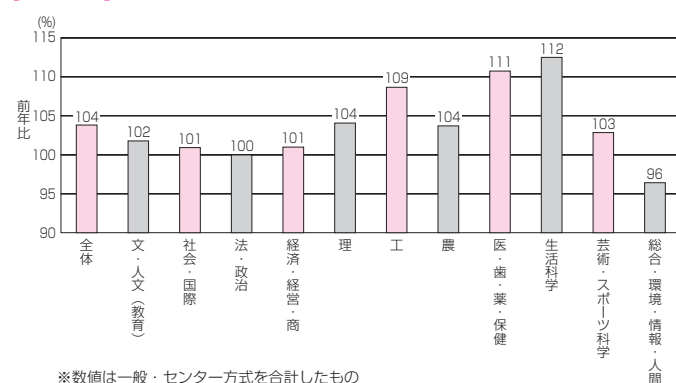
理系では、「理」「工」「農」「医・歯・薬・保健」学系の志望者が昨年比に比べて4～11%増えており、安定した高い人気を集めている。「理」学系では「化学」(前年比98%)、「工」学系では「材料・物質・資源」(同96%)を除くすべての分野が前年を上回っている。

「医・歯・薬・保健」学系(前年比111%)の詳細分野をみると、「薬」、「看護」、「医療技術」での増加が目立つ。2006年の薬剤師養成課程の6年制化以降、他の資格系学部の人気が続く中で、ひとり取り残された感のあった「薬」だが、志望者数が前年比113%と大幅に伸びており、人気の低迷に歯止めが掛か

【表7】大学所在地区別 志望動向(第3回全統マーク模試より)

地区	一般方式			センター方式			合計		
	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比
北海道	10,789	10,688	99%	10,495	10,979	105%	21,284	21,667	102%
東北	9,406	10,505	112%	8,391	10,123	121%	17,797	20,628	116%
関東(東京を除く)・甲信越	50,564	54,874	109%	29,544	33,147	112%	80,108	88,021	110%
東京	475,275	486,602	102%	199,015	198,565	100%	674,290	685,167	102%
東海・北陸	118,389	127,762	108%	45,919	49,560	108%	164,308	177,322	108%
近畿	174,914	182,448	104%	73,629	77,897	106%	248,543	260,345	105%
中国・四国	15,523	16,185	104%	8,077	8,835	109%	23,600	25,020	106%
九州	18,828	18,477	98%	14,628	14,830	101%	33,456	33,307	100%
全体	873,688	907,541	104%	389,698	403,936	104%	1,263,386	1,311,477	104%

【グラフ8】私立大 学部系統別志望動向(第3回全統マーク模試より)





りつつある。「看護」と「医療技術」は、既存の大学での志望者増に加え、来春も大学・学部の新設・改組が相次いでおり、それぞれ前年比111%、113%と近年の人気を維持している。「医」（前年比106%）では、**昭和大**、**東邦大**、**関西医科大**が来春学費の値下げを行い、昭和大が前年比127%、東邦大が同139%、関西医科大が同141%と志望者を大きく増やしている。来春入試でセンター利用入試を新規実施する**埼玉医科大**と**東海大**は、前年比147%、131%となった。埼玉医科大は増加分の大半を新たに導入したセンター利用入試で増やしているのに対し、センター利用入試が地域枠である東海大は、一般入試で新しい志望者を掘り起こしている。

全系統の中で一番伸び率の高かった「生活科学」系（前年比112%）では、「食物・栄養」（同115%）や「児童」（同111%）、「住居・生活環境」（同111%）といった分野が多く志望者を集めた。

### ◆主要大学の志望動向

続いて主要大学の志望動向について詳しくみてみよう。**【表9】**は全国の主要大学の志望動向を大学グループごとにまとめたものである。

首都圏では、「早慶上理」が前年比96%と志望者を減らしているが、「MARCH」は同99%と前年並み、「日東駒専」は同103%と志望者を増やしている。最難関グループの「早慶上理」は、**上智大**の前年比105%を除いて、志望者数が減少。「MARCH」「日東駒専」は上位層も増えている。従来であれば「早慶上理」を志望していた層が、ひとつ志望を下げて確実に合格できそうな大学を志望する安全志向が働いているようだ。

近畿圏では、「関関同立」が前年比104%、「産近甲龍」が同106%といずれも増加しており、首都圏に比べて近畿圏は主要大人気が顕著にあらわれている。「関関同立」は、ここ数年志望者の減少が続いていたが、今春入試で志望者数が増加に転じ、模試においてもそのままの勢いを維持している。グループ内で最も増加率の高かった**関西学院大**（前年比109%）は、人気系統である教育学部で幼児・初等教育学科と臨床教育学科の2学科を教育学部1学科に統合し、幼児教育コース、初等教育コース、教育科学コースに再編する。一般入試・センター利用入試あわせて2,260人→2,611人（前年比116%）と多くの志望者を集めた。

### ◆大学・学部・学科の新設の動き

最後に、大学・学部・学科の新設の動きをみておこう。

来春は、**札幌保健医療大**（看護）と**岡崎女子大**（子ども教育）が新たに開校される。2大学とも人気系統の新設ということもあり、札幌保健医療大で募集人員50名に対して199人、岡崎女子大で募集人員28名に対して123人の志望者を集めている。模試実施後の田中文字部科学大臣の設置不認可発言で全国的な注目度を

増したこともあり、今後さらに志望者を集める可能性がある。

学部・学科においても医療系・教育系の新設が続いており、看護学科は来年度8大学で新設される。なかでも、3大学を1大学に統合する**常葉大**に新設される看護学科の志望者は、募集人員52名に対して368人となっている。

教育系の学部・学科では、前述した関西学院大の他に、**学習院大**でも文学部に教育学科が新設される。今回の模試では、募集人員25名に対し、志望者が762人となっており、高い人気を示している。今回の模試のボーダーランクは4ランク（偏差値57.5）となった。

その他に主要大の動きでは、**明治大**に総合数理学部が新設される。学部全体の募集人員194名に対し、7倍を超える志望者を集めている。ボーダーランクは、英・数で受験できる一般選抜が5ランク（偏差値55.0）ないし6ランク（偏差値52.5）、これに国語または理科が加わる全学部統一入試の3科目、4科目方式は6ランク（偏差値52.5）となっている。また、**同志社大**で新設されるグローバル地域文化学部も募集人員115名に対して志望者が1060人と非常に高い人気を示している。

来春は前述したトピックの他に、首都圏や近畿圏で主要大を中心にキャンパス移転の動きが多く、こうした要素も受験生の志望大学選びへ影響を与えそうだ。

**【表9】全国主要私立大 志望動向（第3回全統マーク模試より）**

大 学	一般方式			センター方式			合計		
	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比
早慶上理	97,050	93,868	97%	24,251	22,494	93%	121,301	116,362	96%
早稲田	46,741	44,815	96%	11,320	10,057	89%	58,061	54,872	95%
慶應義塾	24,256	22,175	91%	—	—	—	24,256	22,175	91%
上智	15,141	15,835	105%	—	—	—	15,141	15,835	105%
東京理科	10,912	11,043	101%	12,931	12,437	96%	23,843	23,480	98%
MARCH	133,221	133,268	100%	58,089	56,186	97%	191,310	189,444	99%
明治	40,699	39,706	98%	18,547	18,365	99%	59,246	58,071	98%
青山学院	21,896	22,750	104%	8,542	8,213	96%	30,438	30,963	102%
立教	22,761	21,992	97%	10,712	9,579	89%	33,473	31,571	94%
中央	19,167	19,372	101%	10,637	10,445	98%	29,804	29,817	100%
法政	28,698	29,438	103%	9,651	9,584	99%	38,349	39,022	102%
日東駒専	68,376	71,442	104%	30,155	30,338	101%	98,531	101,780	103%
日本	28,401	30,085	106%	13,623	13,710	101%	42,024	43,795	104%
東洋	19,330	20,702	107%	8,585	9,102	106%	27,915	29,804	107%
駒澤	10,345	10,657	103%	4,048	3,976	98%	14,393	14,633	102%
専修	10,300	9,998	97%	3,899	3,550	91%	14,199	13,548	95%
関関同立	78,185	82,251	105%	41,887	42,870	102%	120,072	125,121	104%
関西	22,118	23,274	105%	8,677	8,508	98%	30,795	31,782	103%
関西学院	15,525	17,040	110%	6,346	6,831	108%	21,871	23,871	109%
同志社	20,736	22,124	107%	10,660	10,505	99%	31,396	32,629	104%
立命館	19,806	19,813	100%	16,204	17,026	105%	36,010	36,839	102%
産近甲龍	39,765	41,241	104%	12,244	13,748	112%	52,009	54,989	106%
京都産業	5,780	6,122	106%	1,771	1,941	110%	7,551	8,063	107%
近畿	18,185	18,931	104%	5,890	7,079	120%	24,075	26,010	108%
甲南	4,829	4,732	98%	1,594	1,497	94%	6,423	6,229	97%
龍谷	10,971	11,456	104%	2,989	3,231	108%	13,960	14,687	105%
北海道2大学	5,037	4,272	85%	4,006	4,127	103%	9,043	8,399	93%
北星学園	1,794	1,446	81%	1,537	1,459	95%	3,331	2,905	87%
北海学園	3,243	2,826	87%	2,469	2,668	108%	5,712	5,494	96%
東北学院	2,430	2,734	113%	2,354	2,826	120%	4,784	5,560	116%
愛知4大学	48,463	51,308	106%	18,375	19,512	106%	66,838	70,820	106%
愛知	10,558	10,498	99%	3,323	3,506	106%	13,881	14,004	101%
中京	11,196	11,564	103%	4,408	4,574	104%	15,604	16,138	103%
南山	11,958	12,226	102%	5,279	5,833	110%	17,237	18,059	105%
名城	14,751	17,020	115%	5,365	5,599	104%	20,116	22,619	112%
福岡2大学	9,666	8,941	92%	6,938	6,445	93%	16,604	15,386	93%
西南学院	2,682	2,059	77%	2,002	2,156	108%	4,684	4,215	90%
福岡	6,984	6,882	99%	4,936	4,289	87%	11,920	11,171	94%